



歯科診療室だより

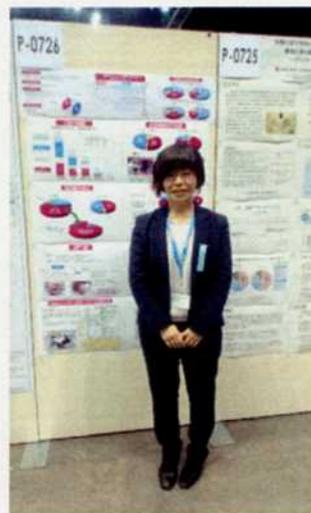
公立みつぎ総合病院

第4号

平成28年3月8日

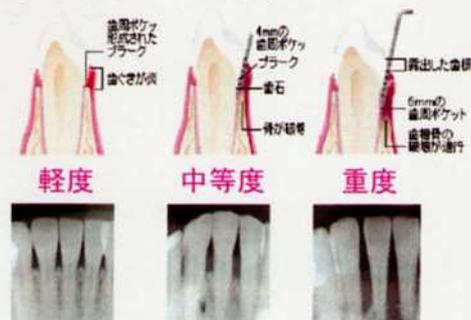
2月25・26日に福岡市で第31回日本静脈経腸栄養学会が開催されました。1万人規模の学会に多職種が参加して議論が繰り広げられました。最近、摂食嚥下障害がある人にどうやって口から食べてもらうかがトレンドのようで、見た目は通常の食品と変わらないのに“ペロ”（舌）で潰せるような食品の展示が多くみられました。

口腔ケアに関する発表も昔に比べると、とても増えていました。それだけ、病院の中でも口腔ケアが定着してきているということでしょうか。当院歯科からも回復期リハビリ病棟入院患者さんを1年間の調査し、奥歯で噛めるようになるとADLやQOLが向上することをお淑やかに立っている歯科衛生士（右写真）が発表をおこないました。



歯周病

「リンゴをかじると歯茎から血がでませんか？」こんなキャッチフレーズを若い人は知らないのでは・・・実はこのキャッチフレーズは、いわゆる“歯槽膿漏”（歯周病）の始まりを示しています。



左の図は歯周病の進行を示しています。食べ物のカスが歯に着いてそれを栄養とする細菌が歯に着いて細菌の塊が増えていきます。放っておくと知らないうちに症状が進行して歯を支える骨が溶けて、歯がグラグラと動くようになって気付きます。

歯周病は、歯だけの問題ではありません。全身疾患との関連が最近の研究で解ってきました。

糖尿病：歯周病が悪化するとインスリンの働きを悪くする物質が出るといわれています。

心疾患：炎症性物質が血液を介して心臓に影響します。

早期低体重児出産：炎症性物質がへその緒を通じて胎児に影響します。

誤嚥性肺炎：唾液に含まれる細菌や食べ物が誤って肺に入ると起こります。

骨粗鬆症：全身の骨が弱くなると歯を支える骨が歯周病で破壊されるため歯周病が進行しやすくなります。

これらがその代表的な疾患ですので注意が必要です。でもやっぱりどれもこれも細菌が原因となっています。定期的な歯科への受診と口腔内のメンテナンスが予防の鍵を握っています。いつでも**歯科スタッフ**に気軽に声をかけて下さい。

文責 歯科部長 占部秀徳